



学校だより 第2号  
令和7年 5月  
富山市立豊田小学校

## 劣等感（苦手意識）にどう向き合うか

校長 吉野 哲

みなさんは「劣等感（苦手意識）」という言葉聞いて、どのようなイメージをもつでしょうか？一般的には、そんな感情や意識はないほうがよいと思われるでしょう。では、そんな「劣等感（苦手意識）」はどのように子供の意識に芽生えていくのかを考えてみたいと思います。（あくまで吉野の私見です）

低学年の子供たちの多くは、自由にのびのびとやりたいことを考えています。「ねえ聞いて」と積極的に言ってくるのは、自分を中心に考えているためです。中学年になると自分の「好き・嫌い」「得意・不得意」が明確になってきます。そのため苦手意識が芽生えてくる時期と言えます。高学年になると自分のことだけでなく、他を意識するようになります。「他者からよく見られたい」「自分の苦手なところを見せたくない」という意識が働きます。他者を意識するだけでなく、比較することで苦手意識がより一層はつきりとしてきて、中には劣等感を抱いてしまう場合もあります。また、理想と現実ギャップを感じ、知らないうちに劣等感を抱いてしまう場合もあります。

他者から見てとても優秀な人でも、その人なりの悩みや苦手意識があるのではないのでしょうか。そのように考えると「劣等感（苦手意識）は誰にでもある」ということが言えます。そして、あって当然とも言えるのです。

そこでこれからの社会を力強く生きていかなければならない子供たちにとって大切なことは、その「劣等感（苦手意識）にどう向き合うか」だと思います。例えば、その「劣等感（苦手意識）」に対して粘り強く努力することで、十分な成果はなくても『精神力』『知力』『体力』を身に付けることができるかもしれません。また、「劣等感（苦手意識）」を納得して受け入れることで謙虚な態度が身に付きます。そして、その謙虚さゆえ様々な学ぶ機会に恵まれることがあります。学んだことを生かすことで、人としての成長が期待できるのだと思います。

このように考えると「劣等感（苦手意識）」というものは扱い方次第で、人の成長を促すものであると言えます。

5月2日（金）に運動会に向けて各団の結団式が行われました。今年の運動会スローガンは「心をひとつに 全力出し切り えがおあふれる運動会」です。運営委員会が中心になって、各学年の意見を聞き、決定しました。そして、それぞれの団が5月24日（土）に行われる運動会に向けて、一生懸命に練習しています。しかし、中には「運動会はいやだなあ」と感じている子供もいると思います。様々な理由で運動会に対して「劣等感（苦手意識）」をもっている子供たちが、先に述べたような気持ちで臨み、少しでも成長するとともに、スローガンにもあるように笑顔を見せてくれることを期待しています。

がんばろう 豊田っ子！